

## 学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	福井
-------	----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	武生東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	50	46	61	46	62	47	3	315	

研究の概要

### 1. 研究主題

自ら学び、心豊かでたくましく生きる子をめざして －基礎・基本の定着を図るためのきめ細かな学習指導法の工夫－
--

### 2. 研究内容与方法

#### (1) 実施学年・教科

高学年における教科担任制 ・6年生・算数・国語・社会・理科・体育・音楽・家庭 ・5年生・算数・国語・社会・理科・体育 ・4年生・社会・理科・図工・体育 （教科の専門性を生かし、児童理解を深めるため） 少人数指導 ・5年生・算数・国語                      ・3年生・算数・国語（一部の時間） （児童数が多い学年であるため） ティーム・ティーチングによる指導 ・全学年算数（すべての時間） （児童の習熟の状況に差が出やすい教科であるため） ・3・4・6年・国語（一部の時間） （実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため）
---

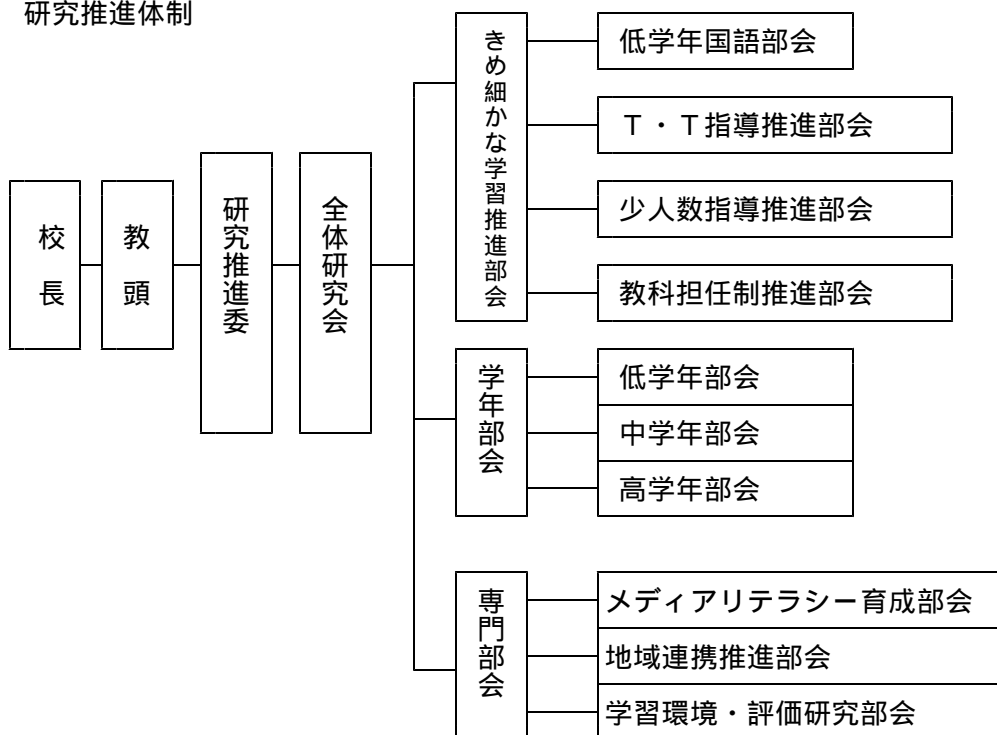
#### (2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子をめざして」 仮説 ・高学年において教科担任制を実施することで、教師の専門性を生かした授業ができ、児童に学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、基礎・基本の定着を図ることができるだろう。 ・算数の授業を中心に、複数の教員が授業にかかわることにより、よりきめ細かな学習指導の展開を図り、児童一人ひとりに確かな学力を身に付けさせることができるだろう。 研究内容・方法 ・高学年では、それぞれの教科において中学校の各教科の免許を持つものが指導にあたる。 ・算数では、1～6年生まで、全学年すべての時間において、T・T による指導を行う。1～3年生では学年の子どもの発達段階を考慮して、担任が主となり、もう一人の教師が担任を補助するという形態で授業を進める。4～6年生では、算数専科の教師が主となり、担任がそれを補助するという形態で授業を進める。一部の単元では、少人数による指導や T・T と少人数を組み合わせた形態を取り入れ、習熟の程度や速さに合わせた授業を行う。
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子をめざして」</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年において教科担任制を実施することで、教師の専門性を生かした授業ができ、児童に学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、基礎・基本の定着を図ることができるだろう。</li> <li>・国語、算数の授業を中心に、複数の教員が授業にかかわることにより、よりきめ細かな学習指導の展開を図り児童一人ひとりに確かな学力を身に付けさせることができるだろう。また、これまで以上に児童一人ひとりの良さや可能性を多面的に理解し評価していくことができるだろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年では、それぞれの教科において中学校の各教科の免許をもつものが指導にあたる。</li> <li>・算数では、1～6年生まで、全学年すべての時間において、T・Tまたは少人数による指導を行う。単元ごとに設定した観点別の評価規準に基づいて、知識や処理能力だけでなく、児童の思考過程を重視する評価を大切にしながら、数学的な考え方を育てていく指導を行う。</li> <li>・国語では、3～6年生まで一部の時間において T・T または少人数による指導を行う。単元ごとに設定した観点別の評価規準に基づいて、話すこと、聞くことに関して児童の実態を踏まえた指導を行うとともに、基礎・基本の定着を図るために、評価を指導に生かしていきたい。</li> </ul>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子をめざして」</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年において教科担任制を実施することで、教師の専門性を生かした授業ができ、児童に学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、基礎・基本の定着を図ることができるだろう。</li> <li>・国語、算数の授業を中心に、複数の教員が授業にかかわることにより、児童の習熟に応じたきめ細かな学習の展開を図り、児童一人ひとりの良さや可能性を多面的に理解し評価しながら、指導に生かしていくことができるだろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年では、それぞれの教科において中学校の各教科の免許のあるものが指導にあたる。ただし、国語・算数に関しては、専科にかかわらず担任同士の交換授業等、担任が指導にかかわるようにする。</li> <li>・算数では、1～6年生まで、全学年すべての時間において、T・T または少人数による指導を行う。単元ごとに設定した観点別の評価規準に基づいて、知識や処理能力だけでなく、児童の思考過程を重視する評価を大切にしながら、数学的な考え方を育てていく指導を行うとともに、評価方法の多様性を図りたい。</li> <li>・国語では、1～6年生まで一部の時間において T・T または少人数による指導を行う。単元ごとに設定した観点別の評価規準に基づいて話すこと、聞くことに関して段階を踏まえた指導を行うとともに、個人内評価を重視し、評価方法の多様性を図りながら単元を通して児童の成長や良さを認めながら学習意欲の向上に生かしていきたい。</li> </ul>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果および今後の課題

1. 研究成果

- ・ 全体的な取り組みを通して、開かれた学級作りが可能になり、学校全体で児童を育てようとする意識が高まるとともに、教師間の指導における協同性を構築することができた。
- ・ 教科担任制により、教科の専門性を生かした学習指導や、小中学校を見通した学習指導が可能である。同学年の一教科を一人で担当しているので、学級の枠にこだわらず、学年で交流させながら学習を進めることができ、より刺激し合い、学習の質を高めることができる。教材研究の時間がこれまでより確保できるようになり、補充的・発展的な学習を多く取り入れることができ、きめ細かな指導を行うことができるようになった。
- ・ それぞれの教師が学年全体を見ているので、より客観的な評価をすることができ、相互評価力も高まった。複数の教師が授業に入ることによって、多面的な児童理解が可能になり、児童のよいところを引き出しやすくなった。幅広い人間関係を構築することで、生徒指導上の問題が生じたときでも、担任と教科担任が連携して対応に当たることができた。
- ・ 算数や国語におけるT・T指導、少人数指導では、児童の意欲が高まり、意識調査でも「よくわかるようになった」と答えている児童が多い。また、多くの保護者が「効果があった」ととらえている。特に習熟度別指導では、児童一人ひとりのやる気が芽生えてきている様子をうかがうことができた。また、学級の枠を超えた教員間の協力指導体制が確立し、教材研究にも協力して取り組むことにより、一人ひとりの指導力向上につながった。また、習熟度別・課題別といった多様な指導形態を取り入れることにより、児童の習熟の程度や、個人差に合わせた指導体制が可能になり、より有効な指導方法を模索することができた。
- ・ 低学年での「聞く・話す力」を育てる取り組みにおいては、児童の多様な考え方や個別的な認識を相互に交流することにより、それを普遍的なものにすることができ、中高学年の指導につながる基盤作りができた。
- ・ 保護者に対する学校開放や意識調査等、様々なアカウンタビリティについての取り組みにより、学力向上への関心を高め、学校と家庭が一体となって、児童を育てていこうとする姿勢が強まった。

## 2. 今後の課題

- ・ 教科担任制・少人数指導では、指導者の出張や年休にいかに対応できるか、教員の組織運営の改善が必要である。また、少人数指導やT・T指導における打ち合わせの時間の確保、行事等に伴う時間割の入れ替えなどの難しさを解消するためには、教員の数が十分確保されることが望まれる。
- ・ 教科担任制では、一つの学年を一人で持っているために、評価規準はあっても評価の仕方が固定的になるおそれがある。それを補うためには、T・T指導等、複数の教員が指導することで、より客観的な評価ができると考える。そのためには、やはり人的な配置が必要である。
- ・ 今後、小学校の学級担任制のよさを生かしつつ、教科担任制をより効果的に取り入れていく方法を考えていく必要がある。
- ・ 評価計画に基づいた評価活動の充実と評価を生かした指導の工夫、児童の実態や習熟の程度を考慮した教材・教具の開発・工夫を進めることで、今後、より意欲的な学習ができるように研究を進めていきたい。

### 学力等把握のための学校としての取組み

- \* 保護者・児童および教職員を対象に意識調査を定期的実施している。

平成14年7月	第1回（保護者、児童）
平成14年12月	第2回（保護者、児童）
平成15年3月	第3回（保護者、児童）
平成15年7月	第4回（保護者、児童、前年度卒業生）
平成15年12月	第5回（教職員）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 研究発表会開催
  - ・ 日時 平成15年11月18日（火）13:00～16:30
  - ・ 会場 武生東小学校
  - ・ 対象 鯖丹地区小中学校その他参加希望教員
  - ・ 目的 公開授業および研究内容の成果報告
  - ・ 内容 公開授業 2年国語、3年国語（T・T）、5年算数（習熟度別少人数）、6年理科（教科担任制）  
全体会 研究経過報告および研究協議（バズセッション）  
講演 「小学校における教科担任制について考える」  
金沢大学教育学部 諸岡康哉教授
- \* 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績
  - ・ 本校での取り組みについては、随時ホームページにて公開している。
  - ・ 「東っ子ネットワーク」の発行
  - ・ 学力向上フロンティアスクールだより「ぐんぐん」を定期的発行
- \* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定
  - ・ 平成15年11月4日 滋賀県学力向上研究協議会において、本校の取組みについて発表する。
  - ・ 平成16年1月16日 京都府亀岡市小学校教頭会が来校し、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無